



QB12
取扱説明書

重要な注意事項

安全に使用していただくための注意事項です 必ずお読みください



この記号は、重要な操作説明書があることを示しています。
このマークは、本機に添付されている資料に
重要な操作方法やメンテナンス方法が記載されていることを示します。



この記号は、感電の危険がある危険な電圧が
存在することを示しています。
本機の内部には、感電の危険があることを示しています。

ご使用前に必ずこの説明書をお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。
すべての警告に注意を払ってください。
必ず正しい手順で取り扱ってください。
水の近くでは使用しないでください。
掃除する際は、必ず乾いた布をお使いください。
製造元の指示に従って設置してください。
次のような場所に置かないでください。
・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所
・直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温
になるところ
必ずAC 100Vのコンセントに電源プラグを差し込んで使
用してください。

Warning:

サブウーファーの主電源スイッチはリアパネルにあります。
このスイッチに自由にアクセスできるようにするために
本機は、障害物のないオープンな場所に設置してください。
スイッチを自由に操作できる状態にしてください。

Caution:

誤った操作は人が死亡または重症を負う可能性があります。
内容をよく理解し、操作手順に記されていないこと
は決して行わないでください。

Service:

アフターサービスを受ける機器は、購入した販売店、
または正規輸入代理店にご連絡ください。



ぐらついた台や傾いたところなど不安定な
場所に置かないでください。
落ちたり倒れたりして、けがの原因となる
ことがあります。

雷雨時や長時間使用しない場合は、
本機の電源を切ってください。

以下のような事が起きた場合は、資格を持ったサービススタッフ
に点検・修理を依頼し、決してご自身で行わないでください。

- ・電源コードやプラグが破損したとき、
- ・液体をこぼしたとき、本機の中に物が入ったとき、
- ・本機が雨や湿気にさらされ、正常に動作しない場合、
- ・落下させてしまった時 等。

この機器を設置する際は、放熱をよくするために、壁
や他の機器との間は少し離して置いてください。
機器の天面や背面に隙間をあけてください
内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。

次のような使い方はしないでください。内部に熱がこ
もり火災の原因になることがあります。

- ・あお向けや横倒し、逆さまにする
- ・押し入れ・AVラック以外の本箱など風通しの悪い場
所に置いたりして使用する
- ・テーブルクロスをかけたたり、じゅうたん・布団の上
に置いたりして使用する

※警告: 必ず付属の電源コードを使用してください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでく
ださい。火災・感電の原因となることがあります。

はじめに

この度は、Q Acoustics 製品をお買い上げいただきありがとうございます。

このマニュアルは、製品のセットアップとインストールを行い、製品の最適な性能を引き出すためのものです。

また本製品を安全に使用していただくために、設置や使用前に説明書や重要な安全情報、警告をよくお読みください。

Q Acoustics Q B12サブウーファーは、オーディオファンやこだわりのある映画ファンの期待に応えるように設計されています。

専用のクラスDパワーアンプと305mm（12インチ）ドライバーを搭載しています。

カートンの中に入っているのは

- Q B12サブウーファー本体
- オーナーズマニュアル(本書)
- 主電源コードまたは販売国に応じた電源コード。
- スパイク4本、ロックナット、スパイクカバー

内容物をよく確認してください。

破損や紛失があった場合は、速やかに買い求めの販売店にご連絡ください。

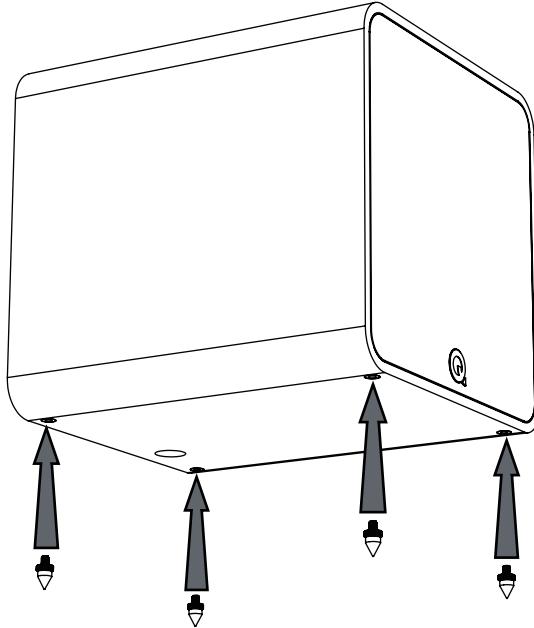
Q Acousticsの製品をお楽しみください。

準備



キャビネットを持って、箱からスピーカーを持ち上げます。
ドライバーユニットに触れたり、保護袋を使って持ち上げたりしないでください。Q B12は非常に重いです。
- 必要に応じて補助者に持ち上げてもらってください。

4つのスパイクすべてをサブウーファーのネジ穴に回し入れます。
木や石の床の場合は、スパイクプロテクターを各スパイクに押し付けてください。
スピーカーが正しくセットアップされたら、水平に安定するまで、すべてのスパイクを調整します。



スパイクは鋭いので怪我に注意してください。
ダメージを与える可能性のある場所には絶対に置かないでください。
ラウドスピーカーの移動は、必ず持ち上げて行います。

設置場所

低音域は実質的に無指向性です。

サブウーファーの設置場所はどこでも構いませんが、ステレオイメージを得るためには、サブウーファーをフロントラウドスピーカーと同じ位置に設置し、できるだけリスニングポジションの中央に配置することが有効です。フロント・ラウドスピーカーと一直線上に、そしてリスニングポジションのできるだけ中央に配置することで、ステレオイメージを向上させることができます。

サブウーファーを壁に近づけすぎると、低音が強調されるため、場所によっては低音がブーミーで不明瞭になることがあります。

電源スイッチは、本機を主電源から切り離すためのもので、コントロールパネルに取り付けられています。

サブウーファーを設置する際には、床板などにゆりみがないか、床の状態を確認してください。大音量時のサブウーファーからの空気の動きはかなりのものです。

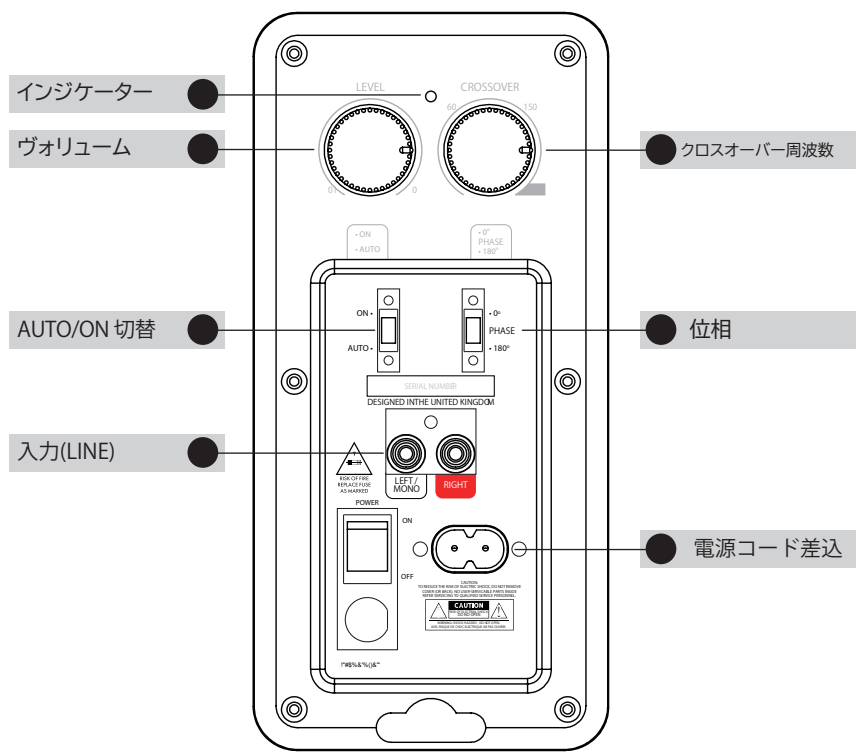
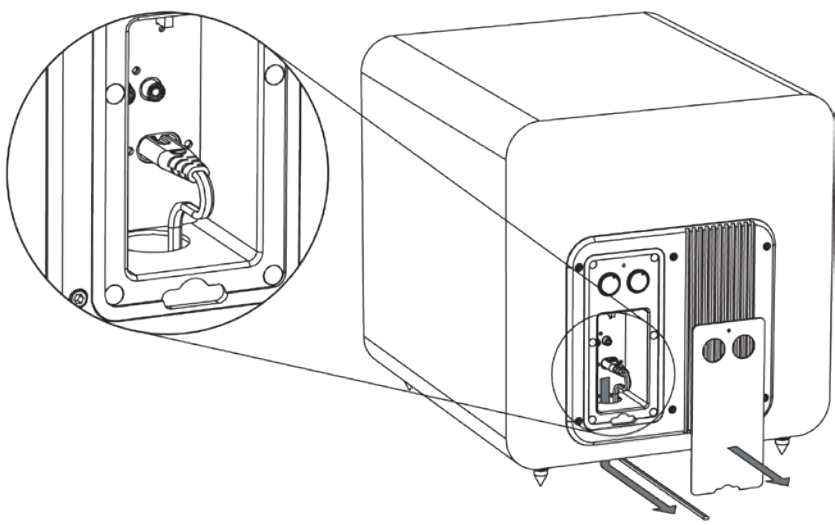
- 柔らかい家具や物の近くに置かないでください。

ユニットの上には、いかなる種類のものも置かないでください。



すべてのラウドスピーカーは、テレビモニターの近くで使用しても問題はありませんが、Q B12は例外です。テレビモニターや磁気に敏感な機器から500mm以内に設置してはいけません。磁気に敏感な機器の500mm以内では使用しないでください。プラズマやLCDスクリーンは影響を受けません。

コントロールと接続



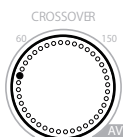
コントロールと接続②



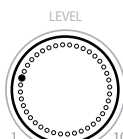
このスイッチがAUTOに設定されていると、使用していないときは、サブウーファーは電力を節約するためにシャットダウンします。信号を感知するとスイッチが入るようになっています。



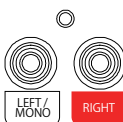
サブウーファーの位相を変更し、システム内の他のスピーカーと同位相になるようにします。サブウーファーをフロントスピーカーから1メートル以上離してフロントスピーカーから1メートル以上離して、位相を0°~180°の間で切り替えます。サブウーファーの音がより大きく充実したものになれば、位相が合っていることになります。



クロスオーバー周波数の設定が行えます。Q Acousticsシステムで使用する場合は、クロスオーバーポイントをダイヤルの「AV」設定にすることをお勧めします。サブウーファーをQ Acoustics以外のシステムで使用する場合は、システムに合わせてクロスオーバーポイントを変更することができます。



ボリューム(音量)を調整できます。無音の状態から始めて、聞こえるようになるまでゆっくりと上げていきます。サブウーファーは、全体の音の一部として聞こえるべきでありシステムの他の部分を圧倒しないようにする必要があります。サブウーファーの音量設定に決まりはありませんので、自分の好みに合うよう音楽や映画で音量を調整してみてください。

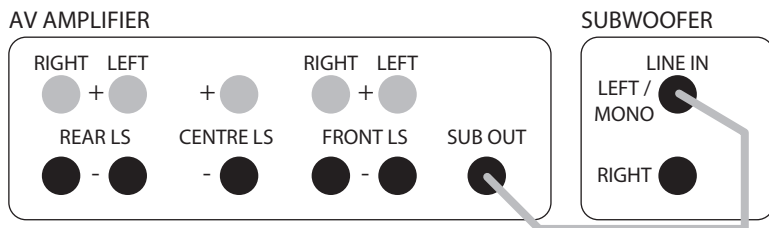


プリアンプなどからの接続に使用してください。本機はパワーアンプ内蔵ですのでアンプのスピーカー出力からの接続はできません。また音声信号がステレオの場合はLeft とRight両方の入力端子を使用してください。モノラルの場合はLEFT/MONOの端子を使用してください。

マルチチャンネル AVシステム

接続

一般的なAVシステムのセットアップでは、1本のRCAフォノインターコネクトが必要となります。このケーブルはかなり長くなりますので、高品質の完全スクリーンケーブルをご用意ください。お近くのQ Acoustics販売店では、適切なインターコネクトをご用意しています。



セットアップ

すべてのシステム接続が適切かつ確実に行われていることを確認します。
サブウーファーの電源が切れていることを確認します。

コントロールを以下のデフォルト設定にします。

- ・ヴォリューム(音量)レベル 半分以下
- ・クロスオーバー 時計回りに一杯(AV設定)
- ・フェーズインバート 0°
- ・オートオン AUTOまたはON

付属の電源コードをサブウーファーに接続した後、AC電源ソケットに接続する。
スイッチオン サブウーファーのPOWERスイッチを "ON" にします。
サブウーファーのアンプパネルにあるインジケータが点灯し、サブウーファーが動作します。
AVアンプの設定を確認し、サブウーファーの設定が『ON』になっていることを確認してください。
AVアンプのサブウーファーレベルは、デフォルトの位置、つまり0dBに設定してください。
あなたは システム内の他のすべてのスピーカーのサイズと位置は、すでに設定されているはずです。
もし 他のチャンネルにクロスオーバー周波数を設定するオプションがある場合は、
スピーカーに合わせて適切に設定してください。

マルチチャンネル AVシステム②

慣れ親しんだステレオ音楽を再生し、PHASE設定とLEVELコントロールを、フロントスピーカーとサブウーファーがシームレスに調和するまで調整してください。

もしもサブウーファーが際立って聞こえる場合は、音量が大きすぎます。人間の耳の低音に対する感度は、ボリュームレベルに応じて大きく変化することを常に念頭に置いてください。

そのため、様々な種類のプログラムとサウンドレベルが必要となります。多くのホームシアターアンプには、最適な音量からのスピーカーの距離に応じて、時間的な遅れを生じさせる距離設定(ディレイ)があります。最適なリスニングポジション(スイートスポット)からのスピーカーの距離。

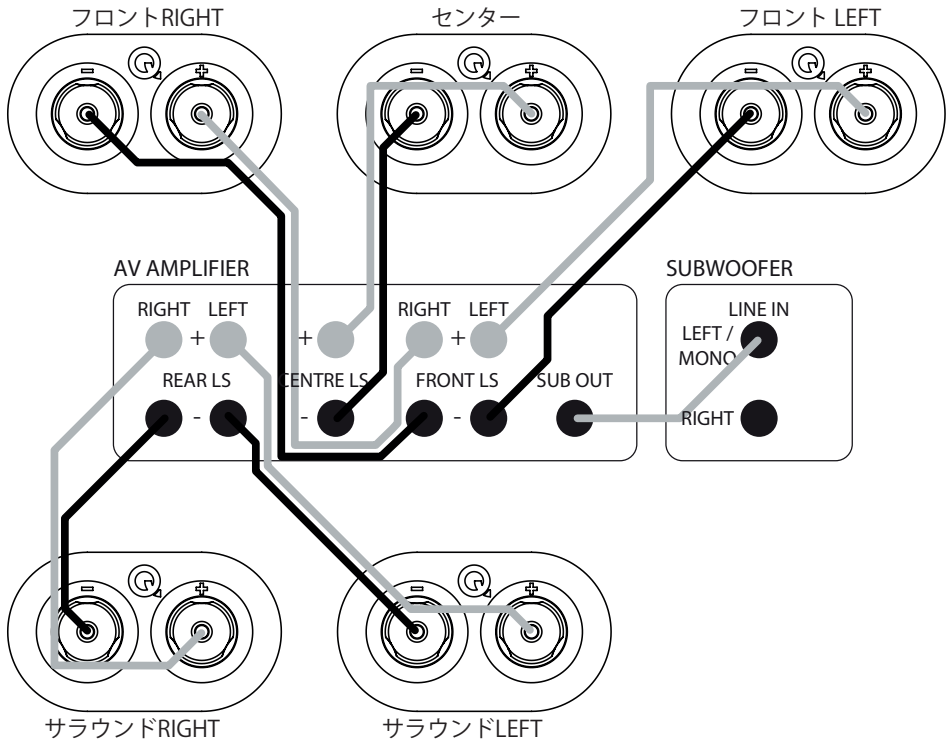
サブウーファーの位置は サブウーファーの位置は、ホームシアターシステムの中で最も重要な要素の一つです。この設定を正しく行うことで、システム全体のパフォーマンスが大きく向上します。

最初に測定した距離から±0.5mを超えて調整しないでください。音色に改善が見られない場合はQ B12のPHASEスイッチで位相を反転してみてください。

その後、Q B12が他のスピーカーに対して移動した場合は、アンプのサブウーファーの距離設定を新しい値にリセットし、同じ作業を繰り返します。

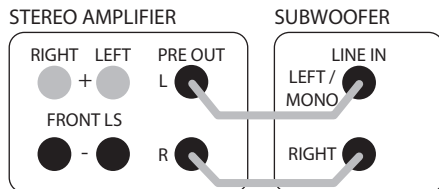
最適な設定になったと確信したら個々のスピーカーが優位になることなく、充実した温かみのある統合されたサウンドになるはず

マルチチャンネル AVシステム③



ラウドスピーカーのケーブルを配線する際には、危険な場所であるオープンフロアを通らないように特に注意してください。ラウドスピーカーのケーブルは、可能な限り部屋の境界に沿って配線してください。意図しないノイズ発生の原因となる可能性があるため、ラインレベル信号ケーブルを電源ケーブルと平行に引き回さないでください。(特に長い距離を引き回す場合)。

ステレオ 2.1ch(2.2ch) システム



高品質のステレオRCAケーブルをQ B12のLとRの入力に接続し、もう一方の端子をアンプのPRE OUTに接続します。

2台のサブウーファーを使用する場合は、それぞれのサブウーファーに1本のRCAフォノケーブルを接続することができます。メインスピーカーのステレオイメージを維持するために、アンプのL出力を左側のサブウーファーに、R出力を右側のサブウーファーに接続してください。

サブウーファーは、それぞれのメインスピーカーの近くに設置する必要があり、セットアップは各サブウーファーごとに行う必要があります。

ステレオ 2.1ch(2.2ch)システム

セットアップ

すべてのシステム接続が適切かつ確実に行われていることを確認してください。
サブウーファースの電源が切れていることを スイッチが切れていることを確認してください。
コントロールを以下のデフォルト設定にします。

・ヴォリューム(音量)レベル 半分以上

・クロスオーバー

大型のフロアスタンド型スピーカーでは最小(50Hz)、

ブックシェルフ型や小型のスピーカーでは中間(100Hz)に設定します。

・フェーズインバート 0°

・オートオン AUTOまたはON

付属の電源コードをサブウーファーに差し込み、次にAC電源ソケットに差し込みます。スイッチオン
サブウーファースのPOWERスイッチを "ON" にします。

が表示されます。サブウーファースのアンプパネルにあるインジケーターが点灯し、

サブウーファースが動作可能な状態になります。

慣れ親しんだ音楽を再生して、PHASE設定とLEVELコントロールを調整してください。

もし、サブウーファースが際立って聴こえるようであれば 音量が大きすぎます。

人間の耳の低音に対する感度は、

ボリュームレベルに応じて大きく変化することを常に念頭に置いてください。

そのため、様々な種類のプログラムとサウンドレベルが必要となります。

音に満足したら、残りのコントロールを使ってパフォーマンスを微調整することができます。

CROSSOVER: クロスオーバー・コントロールは、
サブウーファースの出力が減衰し始める周波数を決定します。出力が減少し始める周波数を決定します。

この設定は、メインスピーカーが単独で強い出力を出し始める周波数と一致させる必要があります。
この調整により、サブウーファースとメインスピーカーの出力がスムーズに切り替わるようにします。

この設定が低すぎると、特定の周波数が弱くなって音に「穴」ができ、
逆に高すぎると、特定の周波数が誇張された低音になります。

適切な設定の目安としては、メインスピーカーの仕様書から適切な設定を知ることができます。
[周波数特性]の項目で、
そのスピーカーが出す最低周波数を確認してください。

長く使用するためのケア



キャビネットのお手入れには、軽く湿らせた布をご使用ください。
溶剤を使用した洗剤は使用しないでください。
研磨剤は絶対に使用しないでください。

キャビネットの表面は、通常は軽くホコリを払う程度です。

エアゾールなどのクリーナーを使用する場合は、製品に直接つけずに、
まず布にクリーナーをつけてください。
クリーナーの種類によっては、仕上げにダメージを与える場合がありますので、
まず小さな面積でテストしてください。
研磨剤や酸・アルカリ剤を含むものは避けてください。

ドライブユニットに洗剤を使用したり、手を触れたりしないでください。

グリルは、必要に応じて柔らかいブラシを使って清掃してください。

保証について

【1】2021年現在 Q Acousticの正規代理店は株式会社イースタンサウンドファクトリーです。
弊社は、製品添付保証書に記載された該当製品を指定期間、動作保証します。

【2】保証期間

原則 保証書に記載の期間

【3】保証内容

保証期間内に弊社の責に帰すべき瑕疵により不具合が発生した場合は、
代納品との交換または補修を無料で行います。商品添付の保証書に記載した保証期間を経過した場合は有料となります。

【4】有料修理

保証期間内であっても、次のような事項に該当する場合は有料となります。

1. 本書を含む付属品、梱包材、保証書に欠品のある場合
2. 弊社の関与のない第三者の作業などに起因する不具合
3. 製品の性能を超えた性能を必要とする場所に設置された場合の不具合
4. 中古品やオークションサイトなど弊社が関与しない第三者の販売した製品
5. 製品または部品の経年変化や経年劣化、またはこれらに付随する不具合
6. 製品周辺の自然環境、屋内環境などに起因する不具合
7. 製品または部品の材料特性に伴う現象
8. 天災その他の不可抗力による不具合またはこれらによって商品の性能を超える事態が発生した場合の不具合
9. 引渡し後の操作誤り、調整不備または適切な維持管理を行わなかったことによる不具合
10. 弊社以外による修理、改造に起因する不具合
11. 犯罪などの不法な行為に起因する破損や不具合
12. 付属保証書の「ご購入日」「販売店」欄に記載がなく、かつ、販売店発行のレシートや領収書等の販売証明書の添付がない場合以上

なお、修理のご依頼等はお求めの販売店もしくは正規代理店(弊社)までご連絡ください。
弊社の連絡先は以下になります。

株式会社イースタンサウンドファクトリー
〒223-0056 神奈川県横浜市港北区新吉田町205
info@esfactory.co.jp
045-548-6592
受付時間 10:00～18:00 (土日祝日・弊社の定める休業日を除く)

Specifications



アクティブサブウーファー	QB12
エンクロージャー	密閉
低域ユニット	305 mm High-excursion driver (12.0 in)
パワーアンプ出力 PEAK	440W
パワーアンプ出力 連続	220W
周波数特性	28 Hz - 300 Hz
外形寸法 (WxHxD):	400 x 400 x 446 mm (15.7 x 15.7 x 17.6 in) *H426 mm (16.8 in) スパイク装着時
本体重量	21.5 kg (47.4 lbs)

